

2020・1・25|土| → 1・26|日|

自然体験活動の トランスフォーマティブ チェンジ

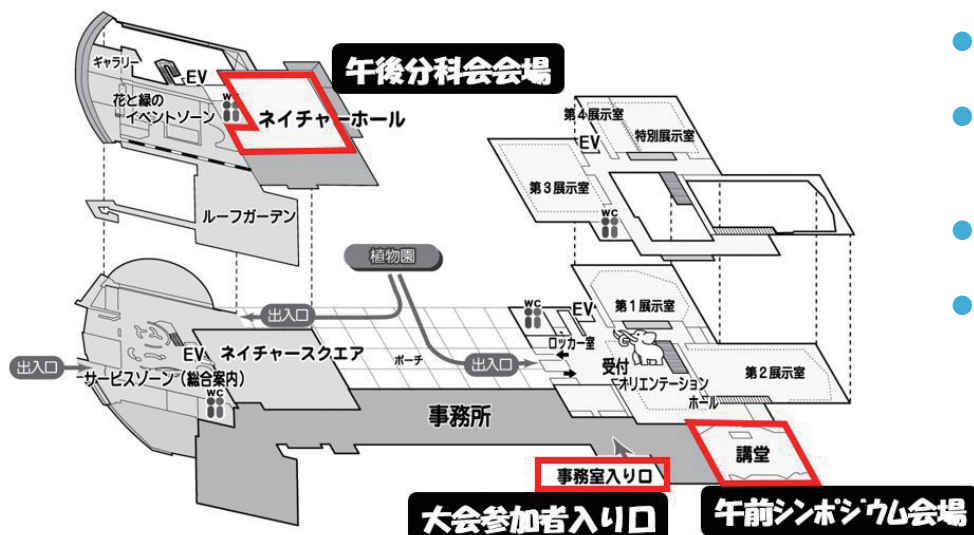
あなたがつくるこれからの
「新しい自然観察会」

第9回
自然観察指導員全国大会
2020 大阪

主催：公益財団法人日本自然保護協会
協力：大阪市立自然史博物館、大阪自然環境保全協会
後援：日本野鳥の会、日本環境教育フォーラム、
日本シェアリングネイチャー協会、自然体験活動推進協議会

開催趣旨

環境教育という言葉が社会に浸透し、各地で自然体験プログラムが行われています。日本自然保護協会が全国の自然観察指導員と行う自然観察会にも年間100万人以上の方が参加するほどです。一方で、自然体験の乏しい世代の増加や、経済的ゆとりのない家庭の子どもほど自然体験が少ないといった格差も生じています。自然への興味関心や境遇によらず多くの人に自然体験の機会を届けるためには、これまでになかったような発想やパートナーシップで、その機会を大きく増やせるよう変革（トランスフォーマティブ・チェンジ）していくことが大切ではないでしょうか。本大会では、その道筋を会場の皆さんと考え、生み出します。



- 会場は、25日が大阪市立自然史博物館、26日が長居ユースホステル「多目的室」です。
- 博物館内では名札を常時身に付けてください。昼食時など外出の際はスタッフの誘導のもとで「事務室入り口」から外出ください。
- 25日昼食は、ぜひ気の合う方を見つけて博物館外でおとりください。詳細は別紙を参照ください。
- 14時からの分科会は2階「ネイチャーホール」も利用します。スタッフの誘導に従ってください。

シンポジウム 講師紹介



【佐野由輝（さのゆうき）】

千葉県自然観察指導員協議会会員。林野庁職員。

都市近郊の公園において、親子を対象に身近な自然とふれあうことを目的とした自然観察会を実施しているほか、NPO 法人イクメンクラブや NPO 法人ファザーリング・ジャパン等父親を中心とした子育て支援団体において、親子自然体験活動や発達障がい児等を対象とした自然散策会を実施している。



【水元勇（みずもと いさむ）】

8 年前に大阪自然環境保全協会の「自然観察インストラクター養成講座」を受講し、保全協会に関わるようになる。特技は忘却。同じ映画でも 3 回までは毎回新鮮な気持ちで見ることが出来る。現在は同協会理事をしつつ、カレープロジェクトを担当している。



【一寸木肇（ちょっきはじめ）】

1951 年神奈川県生まれ。小さい頃から物を拾ったり集めたりするのが好き。

1982 年自然観察指導員となり、小学校現場を中心に、自然の見方や自然観察のあり方について実践してきた。現在は、神奈川県大井町教育委員会生涯学習課で、自然観察会をはじめ、自然情報の受信や発信を行っている。



【秋山幸也（あきやまこうや）】

小学生の頃からバードウォッチングにはまり、この道へ。

観察会の実践として、博物館のまわりで身近な自然観察を中心に行う「生きものミニサロン」を毎月定例で実施。たまたま来館、参加してくれた人を対象にすることで、鍛錬の場と位置づけて楽しんでいる。

人とつながる、自然とつながる。
自然観察指導員



分科会の紹介

分科会テーマ1：無関心だった人もファンになる自然体験のチャンスを世の中にあふれさせよう

趣旨説明文 あなたの自然観察会に、自然好き“でない”人は参加していますか？自然への関心がまだない人にも参加してもらうには、今までなかったコラボや、「観察会」という形式に捉われない参加チャンスの創出が必要不可欠です。身近な生活の一場面への“参入”から、自然観察と結びついていない行事への“混入”など、可能性は無限大。既成概念に捉われない自然との素敵な接点を社会に溢れさせるアイディアを出し合いましょう。

話題提供者

- ・高橋 恵子（自然観察会熊本県連絡会・有限会社せせらぎ）
- ・増田 由香子（婚活 de ハケ岳推進委員会）

分科会テーマ2：あつまれ！ユース！若ものがひらく新しい地域活動

趣旨説明文 地域で活動しようと思ったときに、いろんな困った！にぶつかることはありませんか？ユースならではの新しい発想や情熱・体力だからこそできる活動がある一方で、活動のきっかけがない、時間がない、地元の地権者・ベテラン先輩方との関係づくりが不安、といった戸惑いも多いはず。同世代のまさに悩める仲間たち、絶賛活動を進めている仲間たちとの自由なディスカッションを通して、“自然体験活動の Transformative Change”を考えます。

話題提供者

- ・矢動丸 琴子（国際自然保護連合日本委員会、Change Our Next Decade）
- ・内山 義政（静岡県自然観察指導員会）
- ・宮坂 里穂（川に学ぶ体験活動協議会）

分科会テーマ3：すべての子どもに自然体験をとどけるには

趣旨説明文 全国での自然体験活動の実施にも関わらず、自然体験豊かな子どもの割合が減少しつづけているほか、家庭間での自然体験の格差が拡大している可能性があります。家庭環境や親の興味関心によらず、すべての子どもに自然体験の機会をとどけるにはどのような工夫・しくみが必要でしょうか。感受性豊かな小さな幼児に自然のことを伝えるには、どのようなコツや心がけが求められるのでしょうか。

話題提供者

- ・橋詰 純子（カワセミ自然の会、みなくち子どもの森自然館）
- ・藤井 徳子（富山森のこども園、富山福祉短期大学）

分科会テーマ4：次の時代のパークマネジメントと自然保護

趣旨説明文 公園に大きな転換期が訪れています。公園の「緑」を活用し「公園管理を通じて地域を豊かにマネジメントする」という新たな理念による公園管理が始まっている一方で、ParkPFI という新たな制度により、集客・収益増を目的としすぎた公園管理で自然破壊が生じている事例も見られます。環境教育や自然環境保全の場として機能する公園緑地の、次の時代に求められるあり方や、ボランティアや管理者の役割を考えます。

話題提供者

- ・小林 健人（フュージョン長池）
- ・磯上 慶子（NACS-J 自然観察指導員大阪連絡会）

分科会テーマ5：「個の多様性」を自然保護教育に活かせるネットワーク組織とは

趣旨説明文 情報やモノがあふれ、ライフスタイルや価値観の多様化が進んでいます。組織づくりにおいても、それぞれの個性や価値観・能力の多様性を活かし、相乗効果を生み出すことが重んじられる時代となりました。自然保護や自然保護教育といった同じ目的・目標を共有しながらも、メンバーの「個の多様性」を促し、活かせるネットワーク組織には、どのような運営方法や心構え・人材活用が求められるのでしょうか？

話題提供者

- ・好浦 和弘（NACS-J 自然観察指導員兵庫連絡会）
- ・水元 勇（大阪自然環境保全協会）

【プログラム】

■1日目：1月25日（土）会場：大阪市立自然史博物館 講堂およびネイチャーホール

第1部 10:30～：シンポジウム

- 「2030年の社会変化に自然保護教育はどう向き合うの？」（高川晋一：日本自然保護協会）
- 「『だれ一人とりのこさない』を目指した自然観察会」（佐野由輝：自然観察ちば、イクメンクラブ）
- 「『カレーライスを本当に手作りするプロジェクト』による自然の恵み実感の場づくり」（水元勇：大阪自然環境保全協会）
- 「様々な機会に自然観察を活かすことの大切さとその心得」（一寸木肇：大井町教育委員会おい自然園）

12:05～13:20 昼食休憩

- 「日本自然保護協会の次の10年の自然観察指導員養成について」（高川晋一、秋山幸也：相模原市立博物館、相模原自然観察指導員連絡会）

第2部 14:00～16:30：分科会「多様なアイデアで社会に自然体験をあふれさせよう」

- 分科会1：無関心だった人もファンになる自然体験のチャンスを世の中にあふれさせよう
- 分科会2：あつまれ！ユース！若ものがひらく新しい地域活動
- 分科会3：すべての子どもに自然体験をとどけるには
- 分科会4：次の時代のパークマネジメントと自然保護
- 分科会5：「個の多様性」を自然保護教育に活かせるネットワーク組織とは

■2日目：1月26日（日）会場：長居ユースホステル 多目的室

第3部 9:00～15:00：ワークショップ「新しい自然観察会活動のアクションプランを作ろう」

- 9:00- 1日目の分科会の結果共有と、進め方の説明
- 9:30- 4～6人チームに分かれてのアクションプラン作り
- 12:00- 昼食休憩、自然観察指導員パーティーの開始！
- 12:50- アクションプラン発表会、投票＆表彰会、指導員大喜利
- 15:00- 終了

2日目のご案内

- 会場の長居ユースホステル1階の「多目的室」に、9時にお集まりください。
- 事前に自己紹介カードに記入の上で参加ください。それを使って4～6人一組のチームに分かれます。
- 昼食は会場内で済ませていただきます。マイカップと昼食をご持参ください。ゴミは各自お持ち帰りください。

■お問い合わせ先

 日本自然保護協会

指導員全国大会事務局（担当：高川・小林・浅岡）
当日の連絡先 080-2020-6447